会長就任にあたって

会長　吉﨑真司

このたび江﨑次夫愛媛大学客員教授の後を継いで、日本海岸林学会会長に就任致しました。

2011 年 3 月 11 日(金)に発生した巨大地震とその後の津波によって、東北地方太平洋沿岸の海岸林が壊滅的な打撃を受けました。そしてその日を境にして、海岸林が津波に対して有効であったのか否かについて問われ、また震災から 1 年半が過ぎた最近では、防災機能の高い海岸林の再生はどうあるべきかの議論が色々な場面で展開されています。これらの議論には大きな特徴があります。震災が起きる前の海岸林が抱える課題の中心は松枯れ問題であり、その議論は多くの場合専門家によって行われていました。しかし、震災後の海岸林に関する議論は、専門家から NPO、一般市民に至るまで、実に多方面にわたる人々によって展開されています。研究者においても、生態学、植生学、造園学、景観生態学、砂防学、生態工学、緑化工学、森林科学、土木工学、海岸工学、社会学などの専門家が、それぞれの立場から今後の海岸林の在り様を提言したり、すでに各地で再生に向けた取組みを開始しています。専門家だけではなく NPO や市民からも多くの意見や考えが提案されています。一方で、海岸林の再生を担う行政は、これらの多方面の意見をどのように取り入れ、どのような断面構造を持った海岸や海岸林を実現していけば良いのか、戸惑いながらも試行錯誤を行いながら対応を迫られているというのが実態ではないでしょうか。

ところで日本海岸林学会は、震災 3 か月後の 6 月にシンポジウムを開催し、また半年後の 10 月には被災地である宮城県石巻市で学会大会を開催して､今後の再生の指針となるべき考えを｢石巻宣言」として発表しました｡前会長の江﨑次夫先生の強いリーダーシップと会員諸氏の強い思いがなければ、学会としてここまでの行動はとり得なかったでしょう。あらためて感謝の意を表したいと思います。

さて、これらの後を継ぐ私達の役割は何でしょうか。上記したような多方面からの意見を取り込みながら、海岸林の専門家集団としてのリーダーシップを発揮していけるでしょうか。あらためて学会の目的を確認すると、｢海岸林に関する研究の進展を図り、もって海岸林とそれを取巻く環境の保全、生活環境の改善等に寄与すること。」とあります。このことから本学会は、海岸林造成や維持・管理する技術と海岸林と触れ合い、その効果を享受する市民とその活動の両方を対象とする学会であり続けることが大切なのではないかと考えます。

今回の震災をきっかけとして、はからずも過去のどの時期よりも海岸林がクローズアップされていますが、私達が所有している知見は十分ではなく、これから更なる研究を進めて社会の要請に応えていかなくてはいけません。そのためには学会の研究成果や活動をもっと社会に発信することが求められていると思います。その具体的な取組みとして①被災地における海岸林復興への継続的協力②学会ホームページの充実③学会誌の充実④学会員同士のコミュニケーションの強化⑤他学会・他分野との協力⑥地域社会・市民との協力関係の構築による貢献などがあげられると思います。

会員の皆様には、これまで以上に学会に積極的に関与いただき、社会の要請にしっかりと応えていける学会として発展・充実していけますよう、より一層のご協力をお願い申し上げる次第です。

東京都市大学環境学部 環境創生学科 教授（平成 25 年 4 月より）